

トピックス
1. 「社労士への道」第3回 受験
2. 播州日誌 「魔法使い」



福留経営労務管理事務所
 姫路龍馬会
 社会保険労務士・行政書士
 福留章

<h1>龍馬通信</h1>	No. 35
	2020年11月号

訣別の刻（とき） 立冬～小雪の候

安全と経済。やや見切り発車のように経済再生に舵は切られた。Go-To トラベル、Go-To イート、Go-To イベント。人々は崩雪を打つように外へ飛び出した。自粛からの開放。閉塞感をもたらす精神的ストレス「コロナうつ」有名人の自死。これらの現状を考えれば、経済再生の施策としてやむを得ない面もある。しかし安全面での影響は未知数であり、10月末現在、世界で4千万人以上が感染し110万以上が死亡している。諸外国では再び緊急事態宣言を出す動きもありコロナ終息はまだ見えていない。身のまわりでも感染事例を耳にするし、感染に対する恐怖も今だに消えていない。「with コロナ」「コロナ後の社会」関連の書籍が書店の店頭をにぎわしている。世界中で大きな転換点がきていることは事実。コロナ禍を契機として世界の勢力地図は大きく塗り替えられ、新しい冷戦に突入するともいわれている。新しい冷戦とは軍拡による米・ソ冷戦とは異なる、言わば経済戦争。米・中の覇権争いと言われている。見方を変えればグローバルリズム対ナショナリズム。共産主義対民主主義の10年戦争ということになる。コロナ禍で多くの人は節操のないグローバルリズムは覇権を目指す共産主義勢力、特に中国の「中華帝国」構想に加担する事を知った。虎視眈々と言うより成り振りかまわぬ中国の海外進出（一帯一路、マスク外交、戦略的ODA）は多くの民主主義勢力に現実的な脅威をあたえている。日本でも世界でも、今、求められているものは「調和」であると思う。安全と経済、貿易不均衡、持つ者と持たざる者の格差拡大、紛争、難民、飢餓、貧困、差別、諸問題を解決する術は「調和」であり威力による「脅威」ではない。私生活においても新様式と呼ばれる新しい日常が一般化しつつある。否応もなくデジタル化は勢いを増してつき進んでいくだろう。大きな潮流に飲み込まれないよう、新しい時代によりそっていかねばならない。日に日に寒さを感じるこの季節。冷静さを失うことなくしっかりと自分と自分を取りまく社会を信じて生きていかなければならない。今、古い時代との訣別の刻（とき）なのかも知れない。



※立冬 11月8日頃
 ※小雪 11月22日頃

龍馬と私 龍馬脱藩後の足跡（3） 横井小楠



松平春獄が龍馬に添状を与えたもう一人の人物が横井小楠である。熊本藩士であり儒学者。春獄に招かれて政治顧問となる。小楠は清国が英国に侵略された「アヘン戦争」に代表される欧米列強のアジアへの侵入という危機的状況をみて「破約必戦論」を著す。内容は幕府が米国と締結した不平等条約（日米和親条約）は米国の圧力で徳川の利益の為に結んだ「私」に基づくものだからこれを否定。一端、戦争覚悟で条約を破棄し新たに「公」の議論を立てて開国の国是を立てるべきというもの。これは戦争をすべきということではなく、戦争を辞さない決意で事に臨むべきだという考え方。この破約必戦論を海軍を通じて実現しようとしたのが勝海舟であり、弟子の龍馬であった。勝は小楠を

評して「おれは、今までに天下で恐しいものを二人見た。それは横井小楠と西郷南州だ」と高評価している。又、思想、理解のレベルは高調子でとてもおれの及ぶところではない。ただし、小楠は自分で仕事をする人ではない。横井の言を用いる人がいたら大変なことになる」と断じている。横井の言を用いる人こそ松平春獄(政治総裁職)であった。龍馬は小楠を海舟の使者として何度か訪ねている。文久3年(1863)5月には、京都から越前福井に出向き横井の周旋により春獄から海舟の神戸塾設立資金五千両を借用してもらっている。この時、横井から春獄の側用人を務める三岡八郎(後の由利公正)を紹介される。横井とともに三岡の屋敷を訪ねて酒を飲んだ龍馬は「君がため捨つる命は惜しまねど心にかかる国の行く末」と高吟した。この後、越前藩では酒席で壮士たちが和歌を大声で歌うことが流行ったという。元治元年(1864)2月13日、熊本で蟄居の身の横井を見舞い(海舟の使者として)さらに慶応元年(1865)5月19日にも再訪。その最後の訪問の時の逸話が残っている。「先生は、まあ、2階に御座って、綺麗な女性に酌でもさして酒をあがって、西郷や大久保共がする芝居を見物なさるがようござる。」龍馬の行動範囲の広さにも驚くが、海舟の弟子として八面六臂の活躍をする躍動と人との交際上手にも感心する。わずかな年数で数々の貢積を残した龍馬の原動力はポジティブな向上心とそれに基づく行動力にあったのではないかと思う。

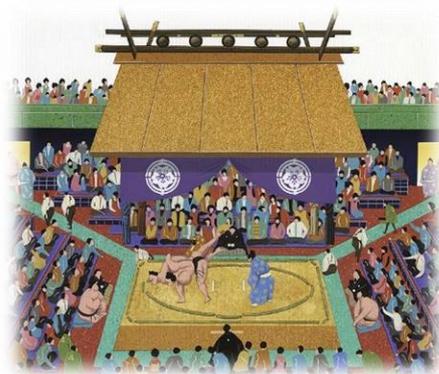


播州日誌

「国技 大相撲」

千年の昔より相撲は、神様に捧げる儀式として脈々と受け継がれてきた。土俵は神様の存在を示す仏教で言うところの結界であり、四股(しこ)は神々を鎮める、鎮魂の儀式である。土俵入りの所作は総て意味を持ち、正真正銘、体と体をぶつけ合い技を競う。よって相撲は日本の国技として存在している。それが昨今では、モンゴルを始めとする外国人力士が、その数の上でも、地位においても日本人力士を圧倒する。幕内十両の外国人力士は総勢20名を超え、約半数を占めている。最高位の横綱は、白鵬、鶴竜が長期にわたり君臨しているが、最近では休場がち。前半に負けがこめばすぐに休場となる。かつての大相撲ブームの頃の横綱は風格がありその地位に誇りを持ち、休場は最大の恥と感じて、短期間に引退していった。横綱の給与は月282万円。休場しても関係なしに支給される。その地位にしがみついた訳である。横綱の品格を疑うような相撲が横行する。張り出し、かちあげ、駄目押し。まるでレスリングのようだ。かつての相撲では、勝った力士が負けた力士の手をとって立ち上がらせたりしていた。勝負にこだわらず全力での力と技競(わざ)であった。モンゴル相撲には土俵がない。国民性や生活習慣を考えると、一概に彼らだけを責める訳にはいかない。親方がしっかりと、国技である由縁を教育すべきだ。それができなければ「国技大相撲」から「国技」の二文字は外すべきだと思う。

2020.10.1



「魔法使い」

ここ五年位の間に、ITやAIの進化がダイナミックに動いた。多くの人にとりあえずスマホを手に入れ、殆ど毎日スマホありきの生活をしている。一人ひとりがコンピューターを持ち歩いているようなもので、大概の事はスマホで済ませられる。一時代前からみればそれは魔法のようなものだ。人々は魔法使いになって利便性にしっかりと取り込まれている。果たしてその機能の何%程を使いこなしているのだろうか。大いなる無駄があるよう

な気がするし、本来不必要な機能に人々が追い回されている感じがする。

多くの人はもうスマホなしでは何もできない。生活できないという有様だ。無駄なメール、たれ流し状態の個人情報。場合によってはそれが社会の暗闇の部分にかかわっている場合もある。利便性を追求する余り、事の善悪や人間としてのあるべき姿を見失っているかにみえる。GAFAに象徴されるIT大手四企業の世界戦略の中で、そうだ彼らこそ魔法使いなのかも知れない。少数の魔法使いと多数の魔法をかけられている人々。若い人達がこれから何を学び何を指して生きていくべきかを考えた時、魔法をかけられる方ではなく魔法をかける人にならなければならない。大変な時間をかけて、色々な努力をしてもなお、到達できるかどうかの世界。成功者と言われる為には人が手をつけていない事を目指して、それを創造していかねばならない。多くの人はその重圧に押しつぶされてしまうだろう。そして一部の人のみが夢を実現させ富をえる。それがデジタルネイチャーの現実なのである。



※デジタルネイチャー：コンピューターやインターネットのある環境が人間にとって「自然」になりつつある。

※GAFA：グーグル アップル フェイスブック アマゾン

参考文献 落合陽一著 これからの世界をつくる仲間たちへ 働き方5.0

2020.10.21

「社労士への道」

第3回 受験

受験勉強は概ね順調に進んでいた。新居での書斎の環境は抜群で、1日8時間は机に向かっていた。とにかく書いた。書いて書いて書きまくった。新しい知識を記憶していくには少し年もとっていた。知識を得ると言う喜びがあり、受験勉強を楽しんでいたというのが実感だ。今でも記念にとってあるが、A4サイズのコピー用紙の束が十数センチにも及んだ。真っ黒になった右の手の掌。人差し指と中指にできたペンだこ。当時、試験問題は択一式と記述式になっていて、現在の選択式と違って自分で単語を記述しなければならなかった。一科目五問を前後の文章に続けて記述しなければならない。私は記述式こそ合否の分かれ目と考え、徹底的に書いて覚える事にしたのである。

解雇の通告も唐突ではあったが、殆ど信じられない事が起った。平成7年1月17日。未明。そのとき姫路でも震度4の揺れがあった。寝室のベッドが、ゆらりゆらりと揺れて。リビングのサイドボードから数本の洋酒が飛び出した。特にひどい被害は無かったが、十分後にはNHK TVが、神戸方面で死者が出た模様という、テロップを流していた。未曾有の阪神・淡路大震災。11月から7月までの受験勉強期間中、全く勉強ができなかった日が僅か数日はあったと思うが、特に震災から3日間が完全にTVに釘付けになってしまった。(他には麻原彰晃逮捕の日)



私は、昭和23年3月1日に神戸市長田区若松町に生まれ、小学校三年生の夏まで育った。その生まれ故郷の神戸の街が、空前絶後の大震災に襲われ三日三晩激しく燃え続けたのだ。焼失する商店街や公設市場は私にとって懐かしいものばかりであった。短い期間に大事なものを二つもなくしてしまった。23年という取り返しのつかない歳月と、生まれ故郷と。勉強どころではない焦燥と悲哀。2週間後くらいから、学友や四国の知人・友人からの見舞いの電話が入り始めた。傷心の私を救ってくれたのは、そんな中の一本の電話だった。神戸在住で辛くも被災を免れた旧知の方から「章ちゃんの生まれた家、育った家、奇跡的に残っているよ」との連絡。その言葉に鼻の奥がキュウキュウとなった。思わずその方に言っていた。「ありがとうございます。私も頑張ります。」失っ

たと思い込んでいたものが、無傷で残ってくれたことへの感謝の気持ち。私は再び受験勉強に邁進することになる。大阪への通学は、私鉄、JRの不通で通信教育の形になった。JRが開通したのが4月頃。車窓から見た被災地の現状は、写真で見た空襲の跡、焦土そのものであった。車中の人々は息のみ、女性の中には手を合わせ涙ぐむ人もいた。「頑張ってください。私も頑張っています」大阪へ通うたびに私は、そう呼びかけていた。めざましい復興の槌音は私へのなによりの励ましになった。



学院の答練では常に首席を通した。受けうる限りの模擬試験も受けた。自信と自信喪失の繰り返しの中で、1日最低8時間の受験勉強が続いた。文字通り「学ぶことの喜び」の日々であった。今までの人生の中で、最も充実した日々であったかもしれない。今はその頃の全ての事が、懐かしく楽しい思い出として心に刻みつけられている。

平成7年7月25日。試験当日のメモに次の言葉。「いよいよこの日がやってきた。長くもあり、短くもあったこの9ヵ月。わがままを通しました。心配もかけました。今はそんな思いを精一杯試験にぶつきたいと思います。この9ヵ月、心から感謝しています。ありがとう、本当にありがとう」黙ってついてきてくれた、妻への手紙。

同一労働同一賃金の対応について

働き方改革の1つとして中小企業の場合2021年4月から「同一労働同一賃金」制度が導入されます。

★ポイント★

- ① 正社員と短時間・有期雇用労働者との間の不合理な待遇差の禁止
- ② 短時間労働者・有期雇用労働者に対する待遇に関する説明義務の強化
- ③ 裁判外紛争解決手段（行政ADR）の整備等。

※注意※ 短時間労働者：パート、アルバイトなど
有期雇用者：契約社員、嘱託社員など



～チェック項目～ 1つでもNOに○がはいると要注意です！（現状をチェックしてみましょう）

- YSE/NO 雇用形態にかかわらず労働条件通知書や雇用契約書を渡していますか？
- YSE/NO 短時間・有期雇用労働者にも正社員と同様の手当を支給していますか？
- YSE/NO 就業規則に人事異動や配置転換の対象となる範囲を定めていますか？
- YSE/NO 短時間・有期雇用労働者にも正社員と同様に慶弔休暇などの特別休暇を与えていますか？
- YSE/NO 更衣室や休憩所、食堂については雇用区分に関係なくすべての労働者が利用できますか？
- YSE/NO 就業規則に雇用形態の転換・登用の規定がありますか？

詳しくは当事務所までお問い合わせください。

